

2020年度 第1回医療安全監査委員会 結果概要

日時：2020年08月03日（月）13時00分～15時30分

場所：国立国際医療研究センター病院 協力研修センター棟2階 幹部会議室

出席者：（外部委員）山本 知孝

東京大学医学部附属病院 環境安全管理室長

細川 大輔

細川大輔法律事務所・弁護士

島 宏一

グリー株式会社・監査役

（内部委員）井上 肇

国立国際医療研究センター 企画戦略局長

山田 賢二

国立国際医療研究センター 統括事務部長

（オブザーバー）杉山病院長

小宮山総務係長

鈴木患者相談係長

（事務局）原副院長・医療安全管理責任者

高本医療安全管理部門長・室長

木村医療安全管理者

大曲国際感染症センター長

杵木感染防止対策副師長（専従）

報告・審議事項

医療安全管理室の構成員

インシデント・アクシデントレポート、事例検討会、3b以上事例、合併症事例

日本医療機能評価機構への報告事例

医療安全に係る研修実施状況（2019年度後期全職員研修、新入職者研修など）

院内ラウンド（2019年度後期医療安全パトロール）

医療安全に係る取り組み：リスクマネージャー会議、転倒転落、患者誤認、インシデント対応

高難度新規医療技術評価委員会報告

未承認新規医療品等評価委員会報告

院内感染管理室報告

講評

特定機能病院としてやるべきことはできており、COVID-19の対応に追われる中で大きな事故や感染もないことは評価できる。

改善を求める事項

- ・死亡事例の把握について

病院として死亡事例の全例把握はできているようだが、決められた報告がない死亡事例に対して督促をする

仕組みが必要である。

- ・インシデントレポートについて

今年度に入って数が減っているのは COVID-19 の影響もあるが、医師や研修医の報告が少ない点について留意してほしい。

- ・e ラーニングについて

正答率が低い事項に関して真剣に取り組んでいるかどうかの検証が必要ではないか。

- ・訴訟事例について

医療安全に関する訴訟事例等の報告について次回の委員会からお願いしたい。

- ・外国人対応について

当院の特徴でもあり言葉のバリアへの対応は重要。次回の委員会で検討内容を報告してほしい。

- ・資料について

図や表の精緻化と綴じ代について次回から対応いただきたい。

- ・医療事故調査制度について

医療事故かどうかの該当性はあいまいになりやすい。報告対象の考え方について再確認してほしい。

【指摘事項への対応】

- ・レポートシステムを用いての死亡事例報告を引き続き促進する。未提出例を定期的に確認する。
- ・インシデントレポートの提出が必要な事例を分かりやすく示し、報告がなされるよう促す。
- ・周知が不足していると思われる事項については、繰り返し話題に挙げる。
- ・医療安全関連の訴訟事例について次回以降委員会の報告事項にする。
- ・外国人に関する医療安全について国際診療部など関連部門と連携し取り組みを検討する。
- ・これまでの図表の様式を見直し、分かりやすく表示する。
- ・死亡、死産が予期されたかという判断に関して整理し、共有を図る。